（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1090100049		
法人名	特定非営利活動法人　三和会		
事業所名	グループホーム　かしわぐら		
所在地	前橋市柏倉町855番地8		
自己評価作成日	平成24年　6月　7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7　群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成24年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

身体機能維持を図り、御利用者様に合ったサービスを常に検討している。また、職員間で何でも記入できるノートを設置し、情報の共有で出来るようにしている。御利用者様と御家族が疎遠になってしまわれないよう、月々の支払いを現金とさせていただき、施設に来られる機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、入居時に本人・家族等にアンケートを行い、生活歴や本人の思い・意向、身体の状態等の情報を得て、一人ひとりの全体像を把握している。日々の生活の中でも、職員は利用者と目線を合わせて、笑顔での対応を心掛けながら、一人ひとりの思いや意向等について関心をはらい把握に努めている。「誕生日はその人の夢や希望を叶える日」と決め、本人の希望に沿った支援を行っている。落ち着いた生活空間が作られており、職員の温かい見守りの中で、利用者が居心地よく暮らしているように見受けられた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を共有し、地域住民の一員として、自由に生活できるような環境づくりを心がけ地域に溶け込めるように職員全員で支援している。	地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有し、ミーティングや会議等でケアの方向性を確認しながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方達から野菜などを頂いたり、地域のお祭りやイベントに参加するようにしている。また施設に来るパン屋を地域の方々も利用できるようにしている。	近隣の人々から野菜等を頂いたり、地域の行事や祭り、近隣の施設の祭り等に参加している。パンの販売車が来た際の利用、ボランティア慰問(だんべえ踊り・尺八・フラダンス等)の際には、地域の人々に参加を呼びかけ、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達にグループホームの役割・認知症という病気の病状など機会がある際には説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・利用者家族が発言しやすい環境を整えるとともに、記入用紙を設置し意見や苦情等があった場合、その都度職員全員で検討し改善している。	会議は2ヶ月毎に開催されているが、9月開催時に市の担当者は参加していない。活動状況や評価等を報告し、感染症対策・食中毒予防・避難訓練等について意見交換を行い、そこでの意見等をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える貴重な機会である。認知症ケアの実際を理解してもらうためにも、市の担当者には毎回の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前橋市に運営推進会議の参加依頼を提出する際、現状を報告したり不明な点を聞いたりしている。	運営推進会議の参加依頼、現状報告や相談等で市の担当者を訪ねたり、電話やメールで情報・意見交換等を行っている。市の職員を講師に招き、認知症サポーター養成講座を開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として拘束をしないという考え方を職員全員で理解している。また「身体拘束廃止推進委員研修」などに参加し、研修内容を施設職員に報告をしている。また施錠はせずセンサーを設置し、事故を未然に防ぐ対策を講じている。	代表者と管理者は「身体拘束廃止推進委員研修」に参加し、職員研修で内容を報告して職員の共通認識を図っている。日中・玄関は施錠をせず、センサーの設置や職員の見守り等により、安全面に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を開催したり資料を回覧し、知識を深め職員一人ひとりが意識するように教育を行い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修内容を施設で勉強会として行い、一人ひとりのレベルアップを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書等の説明を十分に行い、質問をしやすい環境づくりを心掛けている。また改定時も十分な説明を行い、署名捺印をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で運営に関する情報も公表し、意見を反映できるようにしている。	玄関に意見箱・用紙を設置している。利用者の要望等は日常の会話や行動等の中から汲み取っている。運営推進会議や家族等の来訪時には、意見や要望等を聞くように努めている。出された意見・要望等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の際に意見を検討し、反映させるようにしている。	代表者や管理者はミーティングや会議等で、運営に関する職員の意見や提案を聞くように努めている。職員は日頃から意見や気づきを管理者に伝えており、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の希望に沿い、勤務形態や働きやすい環境を整えるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力や経験を把握し一人ひとりに合った研修になるべく参加できる環境を作り上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の研修や勉強会に参加し、他施設職員との交流ができるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせていただき御本人や御家族の意向を十分聞いたり、入所時アンケートを準備し御本人の今までの生活を把握し、より良いサービスの提供ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせていただき御本人や御家族の意向を十分聞いたり、入所時アンケートを準備し御家族の気持ちを把握し、より良いサービスの提供ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の意向を十分に理解した上で、色々なサービスの方法を考え提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と職員が一緒に生活しているという意識を持ち、支えあいながら人生を歩む関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人を中心に家族と施設職員が協力し、共に生きる家族となれるような関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ御家族・友人に来ていただけるように来所しやすい環境や言葉がけを心掛けている。	家族や友人等の来訪時には、リビングや居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。家族等と一緒に、墓参り・外食・買物等に出かけている。電話や手紙での連絡を取り持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	.一人ひとりの性格や趣味・個性などを十分に把握し、利用者さん同士の関係が円滑にいくように職員が間に入りいい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの御本人・御家族の関係をいつまでも継続できるように、何かあれば相談しに来ていただけるような言葉がけや環境を提供している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望をモニタリングや普段の生活の中から吸い上げ、なるべく希望に添えるような支援方法を考え提供している。	日々の生活の中で、本人の言葉や動作等から思いや意向の把握に努め、職員全員で共有しながら支援に取り組んでいる。困難な場合は、家族や知人等からも情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活環境や生活歴などを御本人や御家族より聞いたりアンケートを利用し、その人をできるだけ全て理解できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況等を朝のミーティングや気付きがあった時点で報告しあい情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の希望を取り入れ、職員全員で話し合い工夫しながら介護計画を立てている。	本人・家族等から思いや意向等を聞き、職員全員で話し合い、意見や気づき等を反映させた介護計画を作成している。月1回のモニタリング、3ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア方法の成功例や失敗例をノートに記載し、情報共有できるようにしている。また、それをミーティングやケース会議にて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのその日の体調や気分に合わせて外出したり、イベントをしたりして柔軟に対応できるような環境を整えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の得意不得意を把握し、その人に合った生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の希望を聞き、希望に沿った医療機関の受診をしていただけるようにしている。	入居時に、本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医が協力医の場合には、職員が受診支援を行っている。週1回・協力医に連絡して指示を仰いでいる。薬剤師に薬の相談をすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした身体機能の変化や症状を随時連絡して処置方法を指示していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に備え、医療機関や御家族との情報交換を密にし、早期退院できるような環境づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を入所時に説明し、理解していただき同意書をいただいている。	看取りに関する指針を作成しており、本人・家族等に説明し、同意を得ている。状態等の変化に応じて家族等の意向を確認し、主治医及び関係者全員で話し合いをくり返し、家族等の希望に沿った支援に取り組んでいる。家族等の協力も得ながら、3名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は代表者・管理者に連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は全職員が経験できるように人員配置をしながら行っている。地域の方達には火災等おきた場合、協力を御願いしている。	年1回、消防署立会いの下で夜間想定の総合防災訓練を実施している。年2回、昼夜想定の自主訓練を実施している。地域住民も避難訓練・消火訓練に参加している。災害時に備えて飲料水・缶詰等を用意している。	いつ起こるかわからない災害に備えて、いざという時に慌てず、確実な避難誘導ができるように、年間を通じた実践訓練の増加に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様という意識を持ち一人ひとりを尊重した言葉がけを徹底している。	利用者はお客様であるという意識を持ち、職員は丁寧な言葉かけや対応を心掛けている。排泄介助の際の声のトーンや居室に入る時のノック等に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように職員が選択肢を提供して決めていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなくあくまでも利用者さんのペースや希望に合わせた支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく御本人の希望に沿って清潔な身だしなみができるように職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に合わせて食事の仕方や役割を判断しケアできるように考えている。	利用者は野菜の下ごしらえ等を職員と一緒に行い、職員も同じテーブルで食事をしている。献立には利用者の希望を取り入れ、その人に合わせた調理法で対応している。パンの訪問販売や屋台のラーメン屋が来訪している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェック表にて把握し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせた口腔ケアを毎食後行えるように職員が支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ残存能力を活かし、排泄が行えるようにその人に合った支援を行っている。	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握している。その人に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い、パット内の失禁が減っている。失禁時の対応については、他の人に分からないように注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄パターンを把握し、御本人の希望や御家族の希望も踏まえ、その人に合った排便コントロールの支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間・曜日は決まっているが、そのときの気分や体調によって変更することがある。	日曜日を除き、毎日入浴できる体制になっている。午後は家族等の面会が多いため、午前中に入浴支援を行っている。入浴拒否の場合には、言葉かけの工夫や職員の交代等で対応している。	入浴の曜日や時間帯を決めてしまわずに、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて、いつでも入浴を楽しめるように、個々に沿った支援をしていってほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや心身状態を把握し、自由に生活できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報は入所前に職員全員に伝え、身体状況の変化は随時報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や好みを把握し、張り合いのある生活ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出することにより身体機能の維持・向上ができるので外出機会は多くするように企画している。	テラスでの日光浴やお茶飲み、隣のフラワーパーク周辺への散歩、買物・ドライブ・祭り見物・季節毎の花見・外食等に出かけている。家族等と一緒に買物・外食・墓参り等に出かけており、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には施設が行っている。また外出の際には自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由にやり取りしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるような飾り付けや草花などを飾り、穏やかな生活環境を作るように心掛けている。	玄関入口に暖簾をかけ、ベンチを設置している。室内は落ち着いた設えになっている。ホールには季節の草花を飾り、テレビ・大きなソファー等が設置されている。庭は手入れされ、窓からは木々の緑や草花が眺められ、開放感や季節感を味わうことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの利用者さん同士のふれあいの場所や日向ぼっこができるようにデッキを開放している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品はなるべく自分の部屋あったものを持参していただき、今までの部屋と似た感じの居室作りを行っている。	各居室には、テレビ・花・衣装ケース・丸テーブル・座椅子・家族の写真・炬燵・座布団等、馴染みの者や好みのものが持ち込まれており、本人が落ち着いて過ごせるよう、家族と相談しながら居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、できない部分を職員が支援させていただくように心掛けている。		